



建昌っ子だより

【校訓・キャッチフレーズ】元気で 力のある 建昌の子

目的をもって、考えて取り組む建昌の子に

校長 坂口 利一

2学期は、実りの秋と言われるように、子どもたちが1年の中で心身ともに最も成長する時期です。学校では、秋季大運動会に向けて、みんなで協力し合いながら練習に取り組んでいます。特に、高学年の子どもたちは、全校児童の中心となって応援団や係の仕事などに意欲的に取り組んでいます。



また、学習では、新たな課題に主体的に取り組み、理解を深めようと努力する姿が見られます。

子どもたちの活動を見ていると、自分から調べ学習をしたり自信をもって表現したりする場面に出会います。その姿を見てうれしく思ったり、感動したりすることがよくあります。例えば、表現運動でキラキラした自信ある姿や、みんなの前で自分の考えを堂々と発表する姿は、子どもの努力に裏付けられたものに他なりません。それは失敗しながらも、自分で考えて試行錯誤しながら目的をもって取り組んでいるからこそだと思います。



「目的をもって、考えて取り組む」ということについて、大谷翔平選手（エンゼルス）は、高校時代からマンガラチャートと呼ばれる夢の実現に向けた目標達成シートを活用して、必要なことの習得のために練習をし、今も食事や睡眠の管理・充実を徹底しているといえます。また、菊池雄星選手（マリナーズ）は、「なぜやるのか」「どういう目的でやるのか」を常に問うことが、結果を出すために必要なことだと思います。そのことにもっと早く気付きたかったと今は思っています」と話しています。

さて、子どもたちも学習や少年団、芸術関係の習い事など、学校や地域で活躍の場がたくさん用意されています。では、子どもたちの取り組み方はどうでしょうか。目的をもって一瞬一瞬を考えながら取り組んでいるのか、受け身のままの活動となっていないか、どちらに近いでしょう。子どもたち自身が、目的をもって工夫した取り組みをすることができれば、結果を問わず自信の積み上げになることは間違いありません。

目的をもって、考えて取り組む建昌の子どもを育てるために、わたしたち大人は、一人一人に寄り添った支援者となって、意欲と考える力を引き出すことに努めていきたいと思っています。

【家庭教育ラジオ番組「まあるくなった!」】

8月20日に始良市の家庭教育ラジオ「まあるくなった!」で、本校の家庭教育学級が紹介されました。学級長の眞喜志さんと副学級長の野田さんが出演され、本年度の活動など紹介していただきました。その様子が始良市のホームページ(youtube)で配信されていますので、ぜひご覧ください。